

「がん患者が地域で生活するために、支援者が持つべき心構え」

～生きる力を支えるもの～

がんは県民の死因の第一位であり、更なる高齢化の進展に伴い、がんの罹患数及び死亡数は今後とも増加していくと推測されることから、今後のがん対策については、死亡者数の減少はもとより、がん患者とその家族の苦痛の軽減と療養生活の質の向上、がんになっても自分らしく暮らせる社会の構築が必要です。

そこで今回の研修会では、がん患者が住み慣れた環境で生活するために、地域の関係者がどのような支援を提供していくかについて、医療・介護等それぞれの役割を踏まえながら考えることを目的とします。ぜひご参加ください。

●講演① 気仙沼市立病院で実施している、がん対策の現状

講師：気仙沼市立病院副院長 医師 ^{よこた けんいち} 横田 憲一 先生



●講演② (仮) 生活者の視点を踏まえた上で支援者ができることを考える

講師：小笠原内科理事長 日本在宅ホスピス協会会長

医師 ^{おがさわら ぶんゆう} 小笠原 文雄 先生

●日時：平成25年10月12日(土)

午後2時30分から午後5時

●場所：宮城県気仙沼保健福祉事務所 2階 大会議室

●対象：

医療機関(医師、看護師等)、薬局、介護保険サービス事業所(介護支援専門員、看護師、介護職員、リハビリテーション職員等)、市町関係職員(地域包括支援センター含む)等

講師紹介

小笠原内科理事長 日本在宅ホスピス協会会長

医師 小笠原 文雄 先生

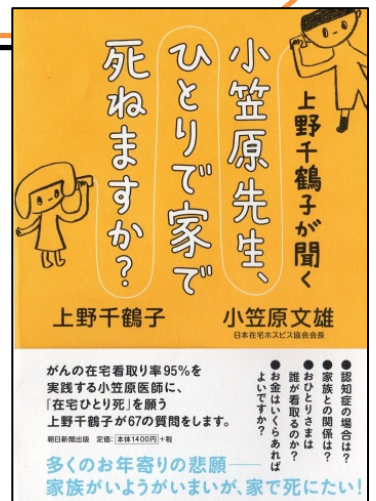
1948年岐阜県生まれ 医学博士

藤田保健衛生大学 医学部 客員教授

名古屋大学第二内科(循環器グループ)を経て、

1989年に小笠原内科を開院

著書「上野千鶴子が聞く小笠原先生、ひとりで家で死ねますか？」



【参加申し込み・問い合わせ先】

宮城県気仙沼保健福祉事務所(宮城県気仙沼保健所) 成人・高齢班

電話：0226-22-6614 FAX：0226-24-4901(代表)

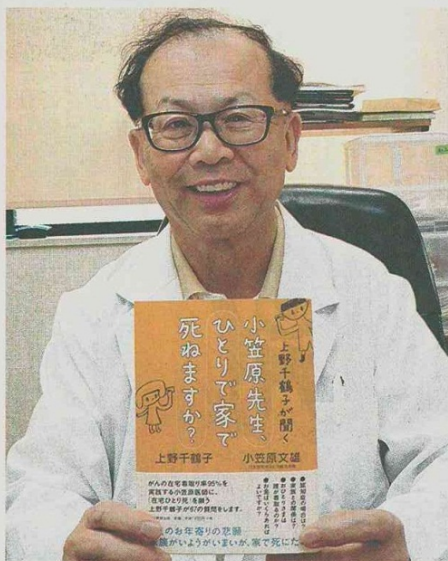


主催：宮城県気仙沼保健所、東北大学がんセンター 先進包括的がん医療推進室 共催：気仙沼市立病院
後援：気仙沼市、南三陸町、気仙沼市医師会、気仙沼歯科医師会、気仙沼薬剤師会、宮城県ケアマネジャー協会気仙沼支部、宮城県看護協会気仙沼支部

「最期まで自分らしく生きて」

がんになっても、認知症を患っても、人生の最期は自宅で迎えたい。そんな在宅死を望む人が増えるなか、日本在宅ホスピス協会長を務める小笠原内科（岐阜市加納村松町）院長の小笠原文雄さん(66)が、在宅死の疑問に答える本を出版した。一人暮らしの高齢者が増える中、手に取る人が増えている。（松野穂波）

「在宅みとり」考えよう



「在宅ひとり死を考えるきっかけになれば」と話す小笠原文雄医師＝岐阜市加納村松町の小笠原内科で

小笠原さん(岐阜の)出版

この本は、「上野千鶴子が聞く 小笠原先生、ひとり家で死ぬますか？」(朝日新聞出版)。この本は、「上野千鶴子が聞く 小笠原先生、ひとり家で死ぬますか？」(朝日新聞出版)。この本は、「上野千鶴子が聞く 小笠原先生、ひとり家で死ぬますか？」(朝日新聞出版)。

肢を広めたい」という。

例えば、症状の急変が不安な自宅で一人きりの時。二十四時間対応の訪問看護ステーションにつながる専用タッチパネルを備えれば、医師や看護師にすぐテレビ電話で話せる。小笠原内科では実用化している。

在宅死は費用がかかるのでは、という不安に対しても、「生活保護受給者でも、自宅で暮らしていき」と答える。寝たきりで動けず、ヘルパーや看護師の介護を毎日受けても、医療保険や介護保

長所、対応 分かりやすく

険の自己負担額は月々約五万円だ。一番のネックは、末期がん患者に在宅ケアを行う医療機関が全国七百四十九カ所だけで、都市部に集中していること。近くに在宅医のいない地域では、選択肢がない状況だ。小笠原さんは「生まれ方は選べなくても、死に方は選びたいもの。がんなどの病気で困っている人や家族はもちろん、医療従事者にも読んでほしい」と願っている。A5判二百三十二ページ、千四百七十円。

終活コーナー「人気 岐阜の書店

岐阜市内で四店舗を構える自由書房は三月か「終活コーナー」を設けた。葬式の希望や家族への思いを書き留めておく「エンディングノート」など、終末期を考えた本で、安心感が得られる約五十冊を並べた。「ひとり家で死ぬますか」と薦める。